

## 平成 21 年度 財団法人田口福寿会事業報告

日本経済は、世界的な需要不足による生産と販売の大巾な減少により、かつて経験したことがない厳しい状況に陥っております。

内にあつては高齢化と人口の減少、外からは中国やインドの急速な追い上げという厳しい逆風の下で、いかにすれば、日本は将来にわたって、政治、経済、文化の各面で国際的に名誉ある地位を保持し続け得るか、国民一人ひとりが厳しい局面に立っていることを自覚せねばなりません。

「21 世紀の我が国の社会を活力に満ちた社会として維持していく上で」重要な地位を占め、大きな役割を期待されているのが我々の民間非営利活動である、と当財団は自負しております。

平成 21 年度におきましても、当財団では社会的不利を背負った障害者の社会参加・復帰、自立事業への助成、児童・高齢者などの社会的弱者の福祉増進への寄与、世界と競争可能な人材を育成する教育への助成と奨学事業、知的で健康的な明るい社会づくりを目指す文化ならびに体育振興事業への助成などを通じて、当財団の基本理念である相互扶助の精神に基づき、不安のない老後、安全な社会、美しく清潔な国土、譲り合いいたわり合う人々が集う地域社会の形成に微力ながら貢献してまいりました。

当事業年度においては、多方面の公益事業に 2 億 8 千 8 百万円を助成してまいりました。その内訳は次のとおりです。

育英、奨学事業を始め社会福祉全般に継続的かつ安定した支援助成を行い、教育、文化、体育、国際交流、地域社会の各分野にわたって幅広く振興助成を実施いたしました。

- ① 田口育英金、タグチ・アカデミー・スカラーシップの育英事業 4,992 万円
- ② 老人、身体障害者、知的障害者、児童、母子、その他福祉を含めた社会福祉助成 3,763 万円
- ③ 田口文庫、体育振興、教育文化振興の教育文化助成 1 億 8,340 万円
- ④ 海外留学生派遣および受け入れ、大学教官海外派遣交流の留学生助成 620 万円
- ⑤ その他申請団体助成 1,085 万円

評議員、理事の皆様におかれましては、今後とも当財団の運営になお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 21 年 12 月

